



# 広島もみじまんじゅうラウンド

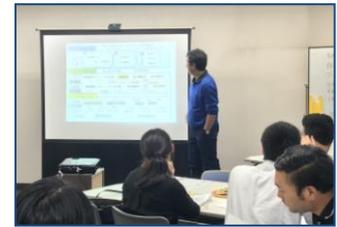
九州体育・保健体育ネットワーク研究会

令和元年10月12日(土) 東広島市役所北館2階201会議室

台風の接近により荒天が予想され、開催？それとも中止？と大変悩ましい状況であり、さらには交通機関が早々と運行を中止し、参加が叶わずといった方もおられる中での開催でしたが、広島県内各地から、先生方に結集していただき、少数精鋭で熱い議論が繰り広げられました。小学校においては、新学習指導要領全面实施まで、残り半年という時期でもあり、議論の中心は、いかに育成を目指す資質・能力を育てていくかに関する具体的な指導内容に関わるものでした。こういった議論を通して、理解を深め、子供たちにとって学びがいのある授業にしていくための具体的な指導や支援の方法が見えてくるように思いました。

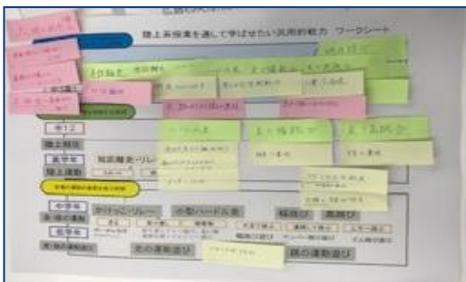
## 【第1部：話題提供】

世界の体育授業の動向からみた体育の授業の在り方について、佐藤先生から話題提供をいただきました。シンガポールに視察をされた際の小学校体育授業に関して、写真や動画を見ながら説明していただいたのですが、様々な基本的な動きが身に付くよう、器具・器具や場の使い方を工夫したり、言葉かけや支援の仕方を工夫したりするなど、動きの習得を目指した授業づくりが丁寧に行われていることがとても参考になりました。今後の「何を理解しているか」をベースにしながら、「何ができるようになるか」というコンピテンシーベースの教育を考えると、もちろん技能を身に付けることも大事にしながら、授業では、思考力・判断力・表現力等や学びに向かう力・人間性等をどのように育ていけばよいか、何かだけに偏るのではなく、バランスよく育てるための授業の在り方について、今後、実践しながら充実させていかなければならないことに気付かせていただきました。



## 【第2部：ワークショップ「コンテンツ・マップの作成、授業づくりを考えよう！」】

ワークショップでは、小学校低学年から高等学校を通して、領域で目指す資質・能力の育成を検討しました。グループごとに領域を決め、学習指導要領に示されている運動種目を書き出すとともに、「知識及び技能」の内容に絞って、中核となる内容は何かを整理していきました。



例えば、陸上系の授業づくりについて考えたグループからは、低学年の「走の運動遊び」から、「かけっこ・リレー」や「小型ハードル走」、そして中学校からは「短距離走・リレー」、「ハードル走」、「長距離走」と学習が繋がっていく中で、「種目特有の技能や学び方を身に付ける」ことを中核として、「合理的で心地よい動き」、「記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わうこと」などを中核となる内容（コア・コンセプト）としているのではないかと、まとめの中で報告がされていました。



全体での交流では、こうした体系化を通して、当該領域で目指す資質・能力を考えるといった作業は、内容だけを追うのではなく、「何ができるようになったらよいか」を自ずと考えることができる、特に小学校の教員にとっては、学びがどのようにつながっていくのかが明確になり、大事な作業だと思うという意見が出されていました。

さらに、会の終盤の議論では、「支援が必要な児童への手立て」に関して、様々な場面での事例が出され、どういった手立てが考えられるかについて、意見が出されました。近頃よく「ユニバーサル・デザイン」の視点に立った授業づくりといった言葉を聞きますが、一人一人の教育的なニーズに応じたきめ細やかな指導や支援について、今後も大切に考えていかなければならないという話になりました。研修の場でも、議論の一つとしていけたらよいのではと感じました。

今回は、爽やかなお天気のもと、広島で皆さまと一緒に学べる機会がもてるとよいなと思っております！

